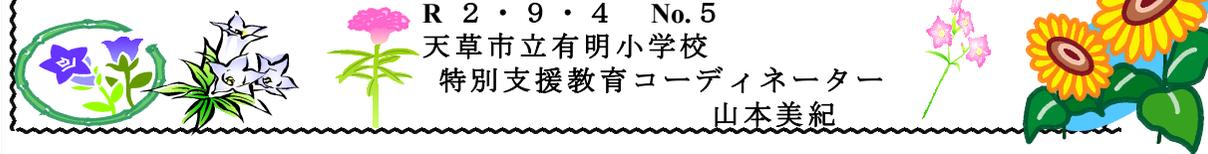


いっぽいっぽ

R 2・9・4 No.5

天草市立有明小学校
特別支援教育コーディネーター
山本美紀



子どもの声に 元気をもらっています

台風一過。被害はなかったでしょうか。また週末の備えもよろしくお祈りします。子どもたちが夏休みを終えて学校に戻ってきました。今年はコロナ禍のため、短い夏休みとなってしまいました。プールも閉鎖され、子どもたちは、ストレスをためたままでなかったでしょうか。日に焼けて真っ黒になった子どももいれば、逆に色白に戻った子どももいます。

何はともあれ、子どもたちの生活の場はやはり学校であるようです。保護者の皆様には、夏休み中子どもたちが大変お世話になりましたこと、お礼申し上げます。今学期も家庭での支援、地域での支援をよろしくお祈りします。

先生達の夏休み

私たち教師集団にとっても、夏休みは勉強の絶好のチャンス！です、今年の夏休み向上したことをいくつか紹介します。

- ①家庭訪問・・・保護者の皆様が時間を取ってくださったお陰で、子どもたちの環境を知ることができました。大変、お世話になりました。
- ②人権学習・・・今年は、ハンセン病についてDVDを視聴し学びました。コロナ感染者についても同じような差別・偏見が生まれ始めています。一人一人がきちんと知ることの大切さを感じました。
- ③道徳の授業のあり方・・・「熊本の心」資料作成部会及び編集部会委員、中川敏昭先生に来ていただき、講話や模擬授業で学びました。地域のコミュニティスクール協力者の皆さんも、一緒に参加してくださいました。授業が一番！もっともっと腕を磨かないとと決意しました。
- ④発達の凸凹・・・みんな得意・不得意はありますが、各学級の様子からどんな支援が有効なのか、辻川相談員から学びました。2学期からの支援に役立てます。



言葉を育むことの大切さ ～辻川相談員から学んだこと～

「言葉」一つで自分のことが分かってもらえたり、相手をわかったり・・・話し言葉にしる書き言葉にしる、「言葉」ってとても大切だと思いませんか？インターネットの普及で、私たちの生活は便利なことがいっぱいふえました。

反面、子どもたちが「言葉」を知らなくなった。（字面は知っても意味や使い方がわかっていない。）と言われていています。これでは、読み取りの力（文の意味・相手の気持ち・言葉の使い方・・・）は身につけません。「言葉」について考えてみましょう。

言葉の大きな働き

伝える
自分の気持ちを相手に伝えることができる。

考える
「こうしてみようかな？」など言葉を使って頭の中の出来事を整理することができる。

気持ちや行動を調整する
「痛くないよ。」「よいしょ。」「よしよ。」など自分の気持ちや行動を調整する。

言葉を使えるようになるまでに必要な力の育ち

- ①やりとりの力・・・気持ちの共有
- ②注意力・聞き取りの力・・・大人の言う言葉を聞く力・注意を向ける力
- ③理解力・・・言われている言葉と物や状況を結びつける力
- ④記憶する力・・・聞いた言葉（音）とイメージを記憶しておく力
- ⑤真似する力・・・大人の言葉、行動
- ⑥音声を発する力（幼児期の言葉にならないおしゃべり）
- ⑦自分の気持ちや要求を伝えようとする力

（熊本県言語聴覚士会冊子より抜粋）

土台

大人の関わりが必要不可欠

生活リズムを整えてやる。
一緒に楽しく語らう。
色々な経験をさせる。（見る・聞く・触る・味わう・・・）

土台

スマホなどでゲームをしている姿より、子どもと一緒に体を使って遊ぶ・運動する。折り紙で折って作る。など対面してふれあうことが、子どもの学力の基礎になります。保育園・小学校までの関わり、大切にしましょう。

